

公民科学習指導案

指導者 石川県立金沢錦丘高等学校・教諭

指導日時・教室 平成18年10月26日(木) 4限目 教室名 304H
対象生徒・集団 普通科3年生 40人 (内訳 304H 40人)
科目名 政治・経済(単位数 3)
使用教科書 「高校政治・経済」(実教出版)

- 1 単元名 第3編 現代社会の諸課題
3 大きな政府と小さな政府 —政府は経済に介入すべきか—

2 単元の目標

- ① 現代日本の諸課題に対する関心を高め、課題を意欲的に追究し、望ましい解決の在り方を客観的に考えようとしている。【関心・意欲・態度】
- ② 現代日本の諸課題を多面的・多角的に考察し、望ましい解決の在り方について社会の変化や様々な立場、考え方を踏まえ公正に判断している。【思考・判断】
- ③ 現代日本の諸課題に関する諸資料を様々なメディアを通して収集し、学習に役立つ情報を主体的に選択して活用するとともに、追究し考察した過程や結果を様々な方法で適切に表現している。【技能・表現】
- ④ 大きな政府と小さな政府など現代日本の政治や経済の諸課題に関する基本的な事柄について理解し、その知識を身に付けている。【知識・理解】

3 指導に当たって

(1) 生徒の状況

昨年来、M&Aをはじめ株取引をめぐる話題がマスメディアを賑わせてきた。国民の経済問題への関心も高まり、それに伴って興味をもつ高校生も増加している。本校の生徒にも同様の傾向がみられ、日頃の経済分野の授業を通して、積極的な姿勢がうかがえる。

しかし、複雑化、多様化した現代の経済的事象は、その理解にあたって、生徒に難解な印象を抱かせる。また、今後もそのような印象を抱かせる新たな事象が現れることも予想される。そこで、経済的事象の難解なイメージを少しでも払拭し、今後予想される様々な事象に対して生徒自身が考えるための視点を身に付けさせることができないものかと感じたことが、この授業を実施する契機となった。

(2) 指導方針・方法及び教材選定の理由

「高等学校学習指導要領解説」公民編では「政治・経済」の内容(2)「現代の経済」の内容の取扱いについて、「経済的事象を取り上げるに当たっては、…中略…希少な資源をいかに配分するかという選択の問題が基本的な問題として存在していることに気付かせることが大切である」としている。そして、その選択において効率性の追求が目指されるとした上で、効率性の追求だけでは所得配分などの公平性や公正さが必ずしも実現されないこと、逆に公平性や公正の観点だけでは資源の配分が非効率になりうるとして、「現実の経済においてはこのような効率性と公平さとの間の矛盾、対立を調整することが要請されていることに気付かせる必要がある」としている。

今回の授業はその点を踏まえて、効率性と公平性の問題を経済的選択(トレードオフ)の問題として捉え、経済的事象を考える上で必要な視点を育てることを目標としている。

4 単元の指導計画（総時数2時間）

第1時 効率か公平か？ - おおきなカブー (1時間)・・・本時

第2時 効率か公平か？ - 具体的政策の考察 (1時間)

5 本時の指導と評価の計画（第1時）

(1) 本時のねらい

① 効率か分配かをトレードオフの問題としてとらえようとしている。【関心・意欲・態度】

② 課題を多面的・多角的に考察し、望ましい解決の在り方について様々な立場、考え方を踏まえ公正に判断している。【思考・判断】

(2) 準備・資料等 課題文によるワークシート

(3) 本時の展開

時間	学習内容	生徒の学習活動	教師の指導・留意点	評価規準 【観点】(評価方法)
導入 2	○テーマの概要	○今回考えるテーマの概要を知る。	○今回のテーマを通して、社会についての考え方を検討するというのみを伝える。「効率」「公平」等の用語は使用しない。	
展開 38	○「おおきなカブ」	○課題文を読み、自分の意見をワークシートにまとめる。	○ワークシートを配付し、率直に自分の意見を書くように指示する。 ○どちらともとれない意見にするのではなく、必ずどちらかの見解にたつことを助言する。	○効率・公平のどちらの立場をとるかについて意欲的に考察している。 【関心・意欲・態度】 (ワークシートへの記述状況の観察)
	○他の生徒の意見と自分の意見を比較・検討する	○他の生徒の意見を聞き、自分と同じ意見の場合は、理由の相違点があるかに注目し、メモをとる。 自分と違う意見の場合は、理由の相違点をとらえ、自分の意見とどちらが説得力があるか検討し、メモをとる。 ○効率・公平のそれぞれの立場をさらにおすすめると、犬及びネズミはどのような行動をとるか考える。	○ワークシートを回収し、効率(犬の立場)・公平(ネズミの立場)に分類し、ただちに教師がその場で読み上げる。 ○生徒の表情、発言等を活かし、生徒から「説得力あり」と声があがったものは板書する。 ○発問により、思考を深化させる。 「ネズミの分け方をしたら犬は次に同じような状況があった時、頑張るだろうか？」 では、「犬の分け方をしたらネズミは頑張るだろうか？」 「ネズミと犬に与えられたチャンスは平等だろうか？」	○双方の立場、考え方を尊重して、公正に判断しようとしている。【思考・判断】 (生徒の活動状況(発表)の観察及びワークシートの事後チェック)
まとめ 10	○効率、公平のトレードオフの理解	○資料は「機会の平等…効率重視」と「結果の平等…公平重視」との対立をトレードオフの問題として考えさせていたことを理解する。	○「効率」「公平」という概念を初めて使用し、機会の平等と結果の平等の考え方の相違についてまとめる。 ○この考え方をもとに、次時で具体的政策を検討することを予告する。	